

『違ふ。お前は誰の尻にでも隨いて歩く依て、とりもちや云ふてよるね。』

『コラツ。ちよね公、俺れを鳥もちや云やがつたナ。』

『まアそれは清はんの惑亂やワ。金持や云ふてまんねがナ。そない怒らいでも宜えや無いか、あんとと妾いの仲は何やいな。夫婦も同然やないか。なア此方の人。』

『イヒ、女房共。……』

『何云ふてよるね彼奴。オイ喜イ公、怪つ態な聲出さない。』

『拘めへん云はしといて、是れかて皆割前の中に籠つたアるね。』

『そんな色氣の無い事云ふない。さア此方へ来て一杯遣りんか。』

『飲まいでかいナ。同なし割前出して皆より遅ふ來たんや、早ふ飲んで早ふ喰ふて取り戻さな損や、刺身も焼物も、吸物も煮り附けも……。』

『そない一遍に喰はれへんがナ。』

『いや喰ふね。皆俺いの前へ置いといて。オイ其鯛の頭をボンと斬つて船頭はんには……。』

『そんな事お前が心配せえでも、船頭はんにはチヤンと肴があてごふたアる。』

『左様や無いね。其頭を船頭はんに預けといて歸りに持つて去ぬね、明日焼豆腐と煮いて内のお副食にするのや。』

『そんなイデましい事云ひないナ。清やんお前えらい代物連れて來たで……。』

『オイ大きな物でお呉れや。皆が先きに飲んだ丈俺いも飲むね依つて。』

『なんぼでもドン／＼飲んで呉れ。サア大きい物で往くで。』

『オイ喜イやん是れも受けて呉れ。』

『喜イ公。俺いのんも受けてや。』

友達が憤ついでドン／＼飲ましようつたさかい敵ひまへん、見てる間にズブ六に酔ふて仕舞ひよつた『ヒツ。こらあ。誰がこない酔はしやがつたんや。』

『何云ふてるね。お前が勝手に飲んだんやがナ、ちいと風に衝つて酔を醒ませ。さア裸になれ裸に。お、お、何んぼ呪ひになるか知らんけど紅木綿の禪やなんて餘り良え物や無いナ。まア宜えワ。俺れも裸になると夫れ禪が紅白や。舳へ出て源平踊りちウ奴を遣るやないか。』

『源平踊りは面白い。オイ囃子方確かに頼むで。さア遣つた／＼（囃子。龍田川には紅葉を流す……）……。』

内では雷のお松ツあん。暑ふて仕様が無いので近所の嫁はんを連れて浪速橋へ涼みに遣つて参りました。

『まアお松ツあん、賑やかな事や無いか、あつちこつちに豪い大散財してはるが、中々大ていな費用